

令和3年度 新たな課題に対応した人権教育研究推進校としての取組

1 研究当初の児童生徒の状況と課題

校内の環境整備や授業の充実、人権にかかる情報の発信、家庭との連絡連携などを通して、児童が安心して登校し、学べるための取組みを組織的かつ継続的に展開することが本校の課題である。

2 研究テーマ

「子どもの学ぶ権利を守るための適切な教育環境づくり」
～楽しい仲間、楽しい授業、楽しい学校～

3 ねらい

積極的に人と関わる活動を通して、自尊感情を育むとともに自他理解を向上させ、進んで共感し合う集団を育てる。そして、誰もが差別をしない生き方を求め、自分らしくよりよく生きようとする心情を育む。

4 具体的な取組み

(1) 研究の概要

[研究の概要](#)

(2) 各領域における取組

○ 教科における取組

[「チームの勝利をつかもう」 実践報告](#)

○ 道徳における取組

[「まりちゃんとあさがお」 実践報告](#)

○ 特別活動における取組

[「十人十色」 実践報告](#)

○ 総合的な学習の時間における取組

[「人の世に熱あれ 人間に光あれ \(水平社宣言\)」 実践報告](#)

5 成果と課題

(1) 成果

本年度の校内人権教育推進委員会の定期的な呼びかけにより、授業の中に人権教育の目標を持ち、進めることができつつある。また、「人権の木」を校内に設置し、友だちのいいところを書き込んだり、人権通信「心ぼかぼか」を発行したりしたことや、児童会主催の全校行事を工夫しながら実施したことにより、児童の他者への肯定的な関わりが増え始めた。

(2) 課題

学年末学校評価(児童・保護者アンケート)では、「自分(子ども)には、いいところがある。」の項目で、プラス評価は、児童・保護者とも70%に満たなかった。今後、「児童(保護者、教職員)一人一人の自尊感情の向上」を最重要課題とする。また、「共感」をテーマにしつつ「誰もが、わかる・できる授業」をめざし、授業改善を推進することにより、児童の学ぶ権利を確かなものにしていく。

SC、SSWや関係機関との連携を図ったことにより、家庭との信頼関係を育むことができつつある。来年度は、さらに取組みを進め、互いの困り感を共有し、前向きな解決策を提案することで、「子どものための学校」「子どものための家庭」を実現していきたいと考えている。